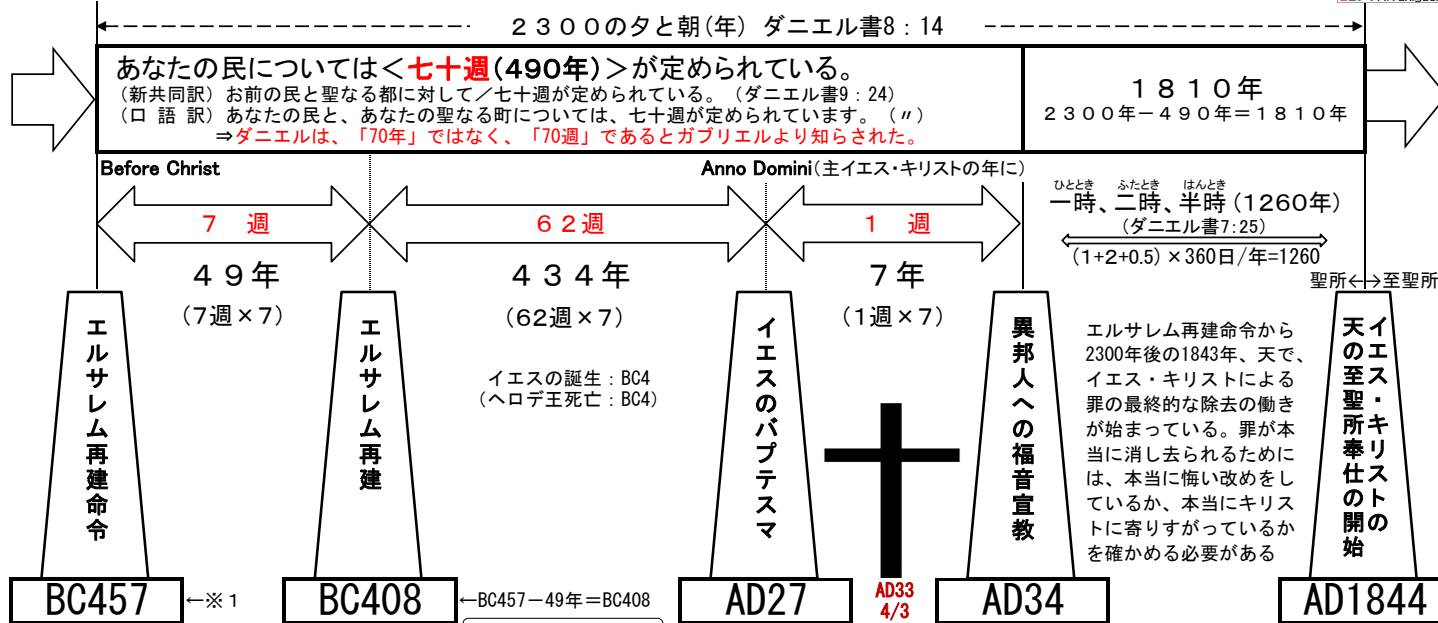


📖 ダニエル書9：24～9：27について

「時」という神の大時計は正確に動いている!!!

NO COPY H.Taniguchi



▶ダニエル書9：27

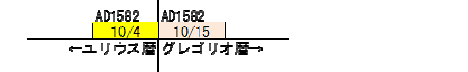
彼は一週の間、多くの者と同盟を固め半週でいけにえと献げ物を廃止する。憎むべきものの翼の上に荒廃をもたらすものが座す。そしてついに、定められた破滅が荒廃の上に注がれる。

3年後後に「いけにえ」と「献げ物」を廃止すると書いてあるだけで、イエス・キリストをこの時十字架刑に処したとは読めない。イエス・キリストは、AD33年4月3日(ユリウス暦)に処刑になった。(H.Taniguchi)

▶1260年 起点AD 538 ローマ法王世権力を持つ
終点AD1798 2/17 ナポレオンの将軍ベルティエがローマに入り、ローマ法王ピウス6世を逮捕
→法王至上権の終焉

▶ラテラン条約(ラテラン協定)
1929年2月11日にローマ教皇庁(教皇ピウス11世)がムッソリーニ政権下のイタリア王国と調印した政教条約。イタリア王国が、ローマ教皇庁から奪ったローマ教皇領に対して、賠償金を支払い、イタリア領であることを確定し、ローマ市内の聖ペトロ教会のある地域をローマ教皇を元首とするヴァチカン市国として独立させることを認めた。また付属の協定で、イタリアはカトリックを唯一の宗教とすることで合意し、学校教育などでの宗教教育を復活させることを約束した。

▶1984年、レーガン、ヴァチカンへ大使を派遣
▶2015年、ローマ教皇、アメリカ、国連訪問



バビロニア方式
465 ①64 ②63 ③62 ④61 ⑤60 ⑥59 ⑦58 ⑧57

ユダヤ方式
465 ②64 ③63 ④62 ⑤61 ⑥60 ⑦59 ⑧58 ⑨57

1844年は、再臨前審判(調査審判)が始まる年、すなわち、イエス・キリストが天の至聖所に入る年である。byウィリアム・ミラー

至聖所における奉仕が終わるとき、人類のための恩恵期間も終わることになる。この世は最後の災いを受け、その後すぐにイエス・キリストの再臨がある。

2300日(年)の間である。そして聖所は清められる。

(新共同訳) 日が暮れ、夜の明けると二千三百回に及んで、聖所はあるべき状態に戻る。(ダニエル書8：14)
 (口語訳) 二千三百の夕と朝の間である。そして聖所は清められてその正しい状態に復する。(〃)

※1: 「七十週の起算点」について
エルサレム(神殿)再建命令、すなわち、70週の起点となる年については諸説がある。
→BC457とする考え方

万有引力を発見したアイザック・ニュートンは、20以上の古代日食の記録を調査し、アルタクセルクスIの第一年はBC464であり、第七年は「BC457年」であることを天文学的に立証した。近年では、エジプトのユダヤ人居住地であったナイル川のエレパンティネ島で見つかった、古代ペルシアのエレパンティネバビルスにも、この事実が確認された。(参考: よくわかるダニエル書 シン・ケフン著 福音社 等)

※2: 三十歳以上五十歳以下→民数記4：3、23、30、35、39、43、47

参考: 年数の数え方
・ユダヤ式・・・即位した年を王の治世の第一年とする。
・バビロン方式・・・王が即位した翌年を王の治世の第一年とする。